

令和4年度第3回まちづくりプロジェクトチーム 議事要旨

日 時：令和4年12月22日（木）9:30～10:55

場 所：富山県庁4階地方創生局長室、オンライン

○委員の主な発言

- ・ コミュニティシンクタンクの議論の中には、人材育成や官民連携、まちづくりの推進という内容がそれぞれ関わっており、それぞれの関係性を改めて整理すべき
- ・ 「デジタルを活用した個性的な地域づくり」という施策について、漠然としていて分かりづらい。流行り言葉なので使っているように見える。キャッシュレス化なども全然追いついていない人がたくさんいる中で、県としてどこまで言うのか。
- ・ 建て付けとしては、個性的な地域づくりの推進の手段としてデジタルが入っているものであり、デジタル化が大枠ではない。デジタルを使うことによって居心地がよく個性的な市街地ができるわけではないということを明確にしておくべき。
- ・ コミュニティシンクタンクなどで、新しい人が参画しやすくするためには、やはり誰がリードするのか明確にされていること。顔が見えなければその組織に入って良いのか悩むことになる。
- ・ まちづくり戦略の1つのテーマである「居心地がよく個性的な市街地・田園地域づくり」について、特定の人たちがぐいぐい進めている印象だが、成長戦略会議の中ではとても重要なことだと思う。本当はこのPTの中でもっと広く議論すべきことなのだが、議論できてない状況。このテーマに特化した会議などが必要なのではないか。
- ・ まちづくりPTの内容は、住民の方にとって既に決まったことをこの会議や報道等で受け取り、どこか遠い上の人たちが決めたことという印象を持っていると思う。住民の方がまちづくりを自分事とするのであれば参加型の企画が必要。実施の主体としては、各市町村が自分事と捉えるべきなので、市町村が適切かと思う。
- ・ 各施策について3年、5年、10年などのロードマップとして示してもらい、短期から中期、長期的に来年度は何をしよう、その次は何をしようという議論ができればよい。